

北海道駒ヶ岳

1 概況

地震活動、噴煙活動は静穏に経過しました。GPS 観測では、引き続きわずかな山体膨張傾向が見られています。

2 地震活動の状況

A 点で基準に達する地震はなく、山頂臨時点で観測されるごく微小な地震も少ない状態で推移しました。

月別地震・微動回数 (A 点)

2002～2003年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
地震回数	1	1	0	0	0	1	0	2	1	0	2	0
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3 噴煙活動の状況

山麓からの遠望では噴煙は観測されませんでした。

4 調査観測の結果

6月2～6日に調査観測を実施しました。昭和4年火口およびその他の火口の熱活動は低下した状態が続いています。

【昭和4年火口】

火口内の96年主火口および南側火口壁で弱い噴気活動が続いています。北側火口縁から赤外放射温度計で測定した火口温度の最高は48(測定距離130m、放射率1.0*)で、昨年と比べて大きな変化はありませんでした。

【96年南火口列】

火口列の所々で弱い噴気活動が続いています。火口列の南端に位置するF13噴気孔では昨年同様かすかな噴気音と硫化水素臭(卵の腐ったような臭い)が認められ、周辺には新鮮な硫黄昇華物が付着していました。赤外放射温度計で測定した噴気孔の温度は88(測定距離3m、放射率1.0*)で特に変化はありません。

【その他】

昭和4年火口の南に位置する通称明治火口、瓢形火口、繭形火口などでも弱い噴気活動が続いています。周辺の地熱域にも拡大する様子は見られません。

【全磁力観測】

昨年から今年にかけて山体内部で熱活動が活発化したことを示すデータは認められませんでした。

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できますが、はっきり対象が見えない場合や、熱源から離れると実際よりも温度が低く表示されます。また、同じ温度でも物体により放射の程度(放射率)が異なるため、その設定で温度が変化します。火山観測では一般に、地面や岩石などの放射率0.9～1.0に設定しています。



北海道駒ヶ岳山頂火口周辺図

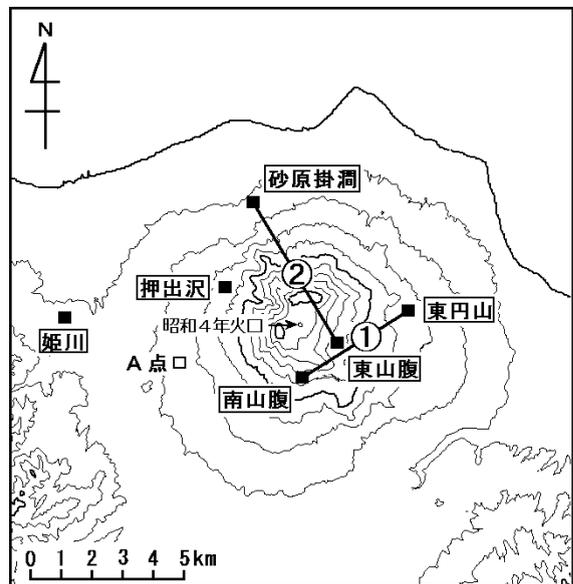
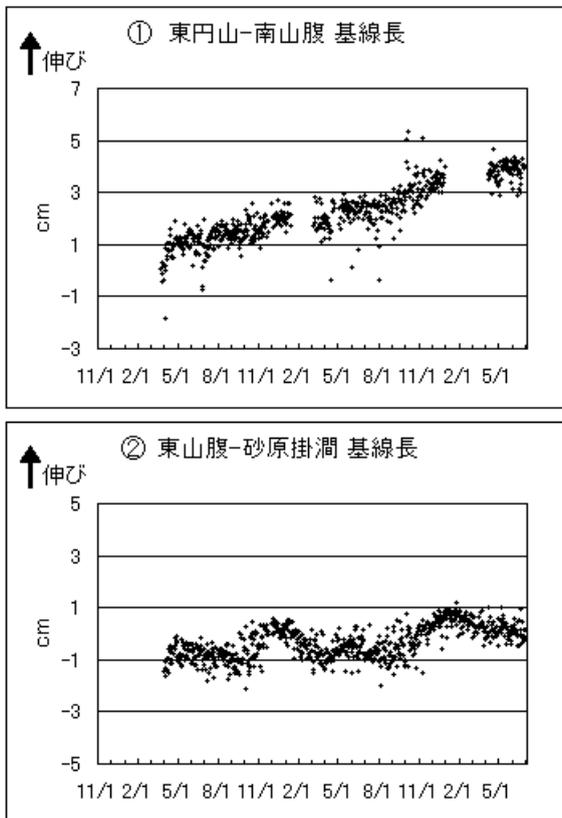


A: 7°C B:8°C C:13°C D:9°C E:48°C F:37°C G:8°C

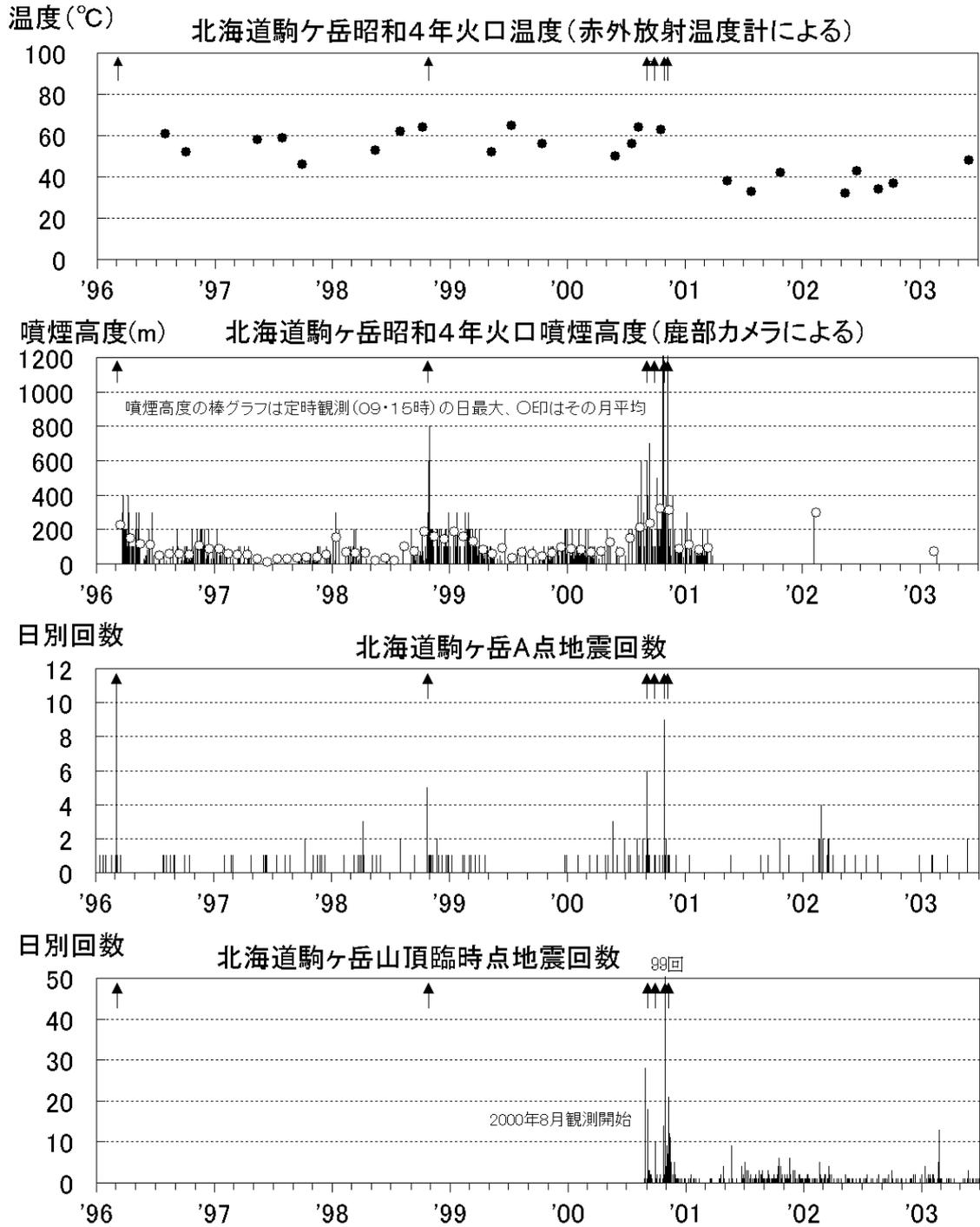
北側火口縁から見た昭和 4 年火口 (A ~ G は赤外放射温度計による測定点、放射率 1.0*)

5 地殻変動の状況

G P S 観測では、引き続きわずかな山体膨張傾向が認められます。



北海道駒ヶ岳基線長変化 (2000 年 11 月 1 日 ~ 2003 年 6 月 30 日)



北海道駒ヶ岳火山活動経過図(日別、1996年1月1日~2003年6月30日) 印は噴火